井戸とポンプのトレーナー

消雪サービス㈱が誕生！

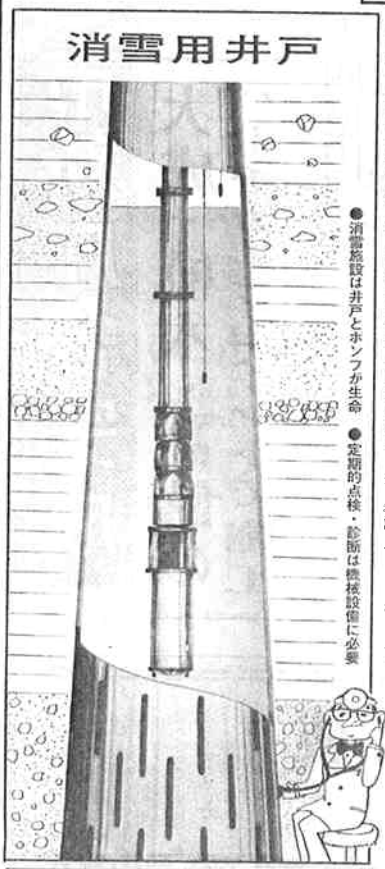
全国で唯一・初の専門コンサル社

消雪施設の定期検査が主目的

――興和地下建設㈱の姉妹会社で発足――

昭和三十八年に、豪雪地長岡で地下水を利用した消雪パイプ道路が県内はもとより、積雪地は全国的に普及し、発展してきたが、最近になって、その水源となる井戸やポンプが摩耗、損傷してきているため、井戸管理の問題が全県的にクローズアップされてきている。はっきり言うと県内の国・県・市町村道に利用されている消雪パイプ道路の井戸、推定六百カ所の井戸の半分以上が酷使されたまま、手入れされずに放置されているが井戸管理の不徹底が機械の故障を誘発し、水質汚染、水脈破壊を生じ、消雪パイプの有効利用が図られないとかなりの支障もでてきている。こういった問題を前提にし、誕生したのが消雪サービス㈱である。言わばこの会社が、興和地下建設㈱（本社新潟市・福田正代表取締役）が県内で初めて地質調査、サク井工事等を手掛けて（昭和三十八年に、長岡市から）消雪パイプ道路施設の建設計画を委託コンサルをして以来、常に国・県・市町村の消雪パイプ道路施設の専門コンサルタントとしての立場を必然的に形成してきたが、こう言った関係の仕事は特殊分野のため、自主的な技術が要求され、専門的企業が少ない上に、営業分野への進出の芽生えがほとんどなく、地味ながら興和地下建設㈱が独自の開発方針で県内の六〇%強の井戸・ポンプを保守、管理してきたが、現在の見通しでは有効需要がなお増える可能性があるとして、この種の仕事を独立、切り離して誕生させたのが消雪サービス㈱で、代表取締役には興和地下建設㈱常務取締役の早川直志氏が就任した。

早川直志社長



●消雪施設は井戸とポンプが生命　●定期的点検・診断は機械設備に必要

―興和地下建設がどういった見知から消雪パイプ施設関係の仕事をやっていたが、昭和三十八年の一月、長岡は大豪雪に見舞われた。この被害及び経済環境の悪化に対して長岡市が独自で「長岡市雪害対策室」なるものを設立して、道路の消雪はどのようにしたらよいのか、地下水問題は、と言ったような道路施設雪害対策のコンサルを当社に委託してきたのが、そもそもの消雪パイプ担当の始まり。その年の暮れに長岡市に三カ所井戸を掘って初めて消雪パイプ道路が建設された。又同時に国でも、長岡・上越の国道事々務所で試験的に消雪道路の建設が始まり、上越国道事務所の試験工区を当社がやった。こう言ったケースから興和地下建設㈱がこの分野の専門コンサルになった過程がある」。

赤信号の消雪井戸対策

―当初は今のようにかなり高度化していなかったし、試行錯誤が多かったと思う。当時の消雪用井戸は現在も使用できるのか―

早川「昭和三十八年頃は現在から比べると道路の車線の交通量も大変少なく、消雪パイプも大型機械による除雪効果と比べるとはなはだ微力で現在のように決定的なものではなかった。しかし段々改良され研究されてきてはいるが、消雪用井戸の建設は町の井戸屋の手に委ねられてきたが、いずれにしても問題が多く、その井戸がはたして使用に耐えられるものか、故障していないかどうか、これから何年使用できるかと言ったコンサル的仕事は町の井戸屋さん、又建設業者の皆さんでは専門家でないから適確な判断が下せないし、保守・管理ができない訳けで、そういった古い井戸が、保守点検されないまま長い間放置されてきた。我々がそういった関係の仕事をやってきた時、常時「古井戸対策が放置されている。誰れかが保守点検しなければならない」と常に感じてきた次第だ」。

データーがなければ破壊のケースもあり

―古井戸対策が放置されているということはその水が直接、人体に飲まれず、人体公害を起さないから問題にならなかった。地味な問題であるが、現在はどんな形で保守管理されているのか―

早川「多くは消雪井戸やポンプが故障した時、請負ったゼネコンさんや、町の井戸屋が出向いて直しているが、従来の井戸は深さが浅く、修理と同時に深く掘削しなければならぬこともある。町の井戸屋が自分で手掛けて掘ったものなら或る程度修復もできようが、他の業者が掘ったものであるならばデーターがなく保守点検が無理だ。又ゼネコンさんとて同じだ。

その井戸を完全に直すという前提に立って、掘削し、以前より多くの水量を増やせるか、又砂が混入されて来ないかの問題もでてくる。データーとか調査資料なしやった場合、井戸を修復するどころか逆に破壊するケースもある。又ゼネコンさんが一括さく井工事した場合、後の保守管理がなされず、故障した場合にその部度修理することになるが、こうした井戸とかポンプは自動車のように常に定期点検が必要なのだ」。

集中性と専門的分野の管理

―地下水を相手にすることであるから不完全な井戸を掘ると地下水脈破壊を起して水が使用できない場合もあるが―

早川「長岡市は初め、民間の井戸と同じように地下十～二十mの浅い井戸を掘っていたが、これが国・県・市道に使用するものだから、一般住民の地下水と共に結泥して問題にもなった。だから浅いいわゆる井戸は問題が多い」。

―地質調査を専門とする同業者もいるがどんなケースでやっているのか―

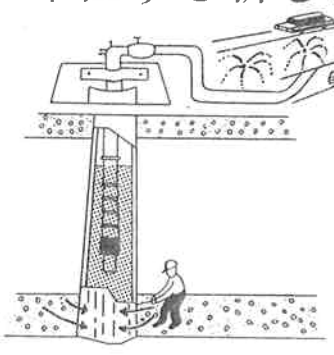
早川「やはり消雪井戸の仕事は仕事の紹介があるだけ井筒にやっている人が多いのではないか。片手間だと仕事も必然的に受身になり役所通りの設計を施工することになりプラスアルファの独自の技術的要素が加味されない場合が多い」。

―「消雪サービス㈱」の発足の具体的動機は―

早川「例えば興和地下建設で年間五十本のさく井工事をすると十年間で五百本になるが、こう言った数の井戸に対して担当者だけがデーターを知り、他はダメだと言うことでは能率もあがらねば、完全な保守点検ができない。だからデーター性を採用し、そのデーターを使用することによって誰れでもが保守管理ができるようにして、又その仕事に対する集中性と専門的分野を更に需要に対応できるような見知に立って「消雪サービス㈱」の誕生となった。興和地下建設社と相似形であるが、今後の活動において新しい分野に形成されるだろう」。

「技術」と「誠実」で奉仕する
株式会社 岡澤建築事務所
事務所　上越市西本町2-3-9
☎(0255)44－1917

雪害を追放！住みよい社会に奉仕する新しいサービスです



営業種目
- 消雪井戸・ポンプの定期検診
- 地下水環境の診断
- 消雪技術の相談
- 消雪機器の販売

消雪サービス株式会社
代表取締役　早川直志
本社　新潟市川岸町3-17　〒951　☎(0252)66-6196

■点検の種類・内容

水位の測定は人間の脈ハク、血圧を測るのと同じことです。井戸を作ったときに比べてどう変っているかを知っておきませんと、周囲の**地下水環境**が変化しているのに気付かず運転し、ポンプ・井戸の故障を起こすことになります。

検査の種類	検査内容	検査回数
1．水位測定	自然水位	年2～4回
2．水質検査	水温、PH、排砂、電気伝導度、濁度	年1回
	水質規準による水道分折	3～5年1回
3．揚水点検	ゲージ圧、電流計、水量一水位降下、排砂、濁度、水圧、配電盤点検	年1～2回
4．ポンプ点検	引上げ、分解、揚水管点検、ケーブル絶縁測定	3～5年1回
5．井戸内点検	埋没測定、水位測定	3～5年1回
6．ポンプ修理	分解修理	5～10年1回
7．井戸改修	目づまり除去、洗ひ	5～10年1回

●揚水点検のとき1、2の検査が同時にできる。